

# 患者交流会

永田克也さん（五五）は、しょく然としてうなだれていた。顔が少し赤く、年令に比べてふけて見える。これまで接してきたところノンキ屋の永田さんが、そのときは、無精ヒゲが一層表情を暗くしていた。

これまでの永田さんの努力は大変なものだった。ストマイの後遺症で難聴の永田さんが、いつも笑顔をたやすく、あいそうが良かっただ。お会いするとすぐ自分から話しかけて、こちらからの質問には、ときどき、ひょうきんな答えを出してしまう。相手の立場で行動することは大変なことだ。だから、永田さんとの大切な話し合いは筆談によらなければならなかつた。

一九八〇年十一月四日の夕暮、喜望の家娯楽室で、阪奈病院を退院してきた永田さんの話を聞きながら、わたしは心の中で深いため息をもらしていた。

永田さんと私たち（キリスト教釜ヶ崎越冬

頂天になって猿とたわむれていた永田さんの姿が忘れられない。永田さんは完治を願うようになつていった。夏が過ぎ、秋が過ぎた。ところが、一九七八年の越冬の最中の二月一日、永田さんは飲酒のため、突然、強制退院をさせられた。西成市民館前でのアオカソ

委員会）との出会いは、一九七七年五月にまですかのぼる。私たちは越冬支援活動で関西の一九の病院に入院した患者さんを、年間を通して定期的に訪問していた。釜ヶ崎では、せっかく入院しても、完治しないまま、中途で退院する人が多い。私たちの病院訪問の目的も、なんとかして一人の患者さんが完治し、自立することを願つてのことである。

四月四日午後五時半。市民館前で異様には第二病院に入院していた。その年の一月に入院した永田さんは、五月にはだいぶ快復され

その頃、永田さんは結核で、枚方市の有沢第三病院に入院していた。その年の一月に入院した永田さんは、五月にはだいぶ快復され

ていて、私たちが訪問したときには、「はよう退院したい」ともらしていた。退院してもこの高令で、難聴の障害をもつ永田さんに何が出来るのであろう。そんな私たちの懸念を

ればった顔の永田さんと会った。目がほとんど見えないくらいの顔がはれ上がっていた。外予想屋をして暮してきた」と平然としていた。このときはレントゲン検査もしないうちに

看護婦ひかえ室前にて、病院のケース・ワーカーと話す。ケース・ワーカーが言うには、

私たちは月に一回永田さんを訪問し、箕面公園にドライブを楽しんだこともあった。有

さし入れされると差別を生むという。行旅病

人が大半を占める病院、二百人中百五〇人がそれに相当するという。われわれを全くといふほど歓迎されていない様子であった。

このときは結核ということで、さいわい、大和中央病院から尾崎の広崎病院に回わされ、一九七九年一月まで永田さんはそこで療養生活を続けた。私たちは広崎病院にも月に一回の割で訪問し、和歌山城へドライブなどもした。

しかし、一九八〇年の二月に、また、永田さんは広崎病院を退院させられ、今度は大東市の阪奈病院に入院することになった。

この頃からである。退院後の希望のないまま、ただ療養生活を続けることは難しい。私たちには退院後のアフターケアの道を真剣に考えはじめた。その一つが患者交流会である。病院を離れて、少しでも家庭的な雰囲気の中で退院後の話し合いが出来たら、そんな願いをこめて第一回患者交流会を一九八〇年五月一四一五日、喜望の家で行なった。患者さんは永田さんと、退院を望んでいる〇さん、それに四年間一度も外出したことがないKさん、の三人。女性軍が心をこめて作つた家庭料理を囲んで話がはずんだ。歌が出、踊りが出

た。

永田さんに見られるような、せつかく病気が治っても、うまく社会に復帰できないと、この現実を少しでも変えていくことが私たちの今後の重要な課題だ。

三角公園を見たいといって酒を一杯ひっかけた永田さん。永田さんの死を無駄にしないためにも私たちは何ができるであろうか。

(N)

患者交流会も二回、三回、四回と回を重ねる間に患者さんの楽しみのひとつに変つてきている。そのうち「労働者の家」の構想も具体化してきた。病院訪問→患者交流会→労働者の家→自立と、この線をいかに太くしていくことが出来るだろうか。

ここで悲しい報告をしなければならない。阪奈病院を退院してきた永田さんは、喜望の家娯楽室でドヤを紹介してもらい、翌朝仕事に行くことになっていた。ところが、仲間が早朝永田さんを起こしに行つたところ、すでに永田さんはそこにはいなかつた。一ヶ月後、梅田の駅前で、冷めたくなっていた永田さんのなきがらが発見されたのであった。かえすがえすも残念でならない。

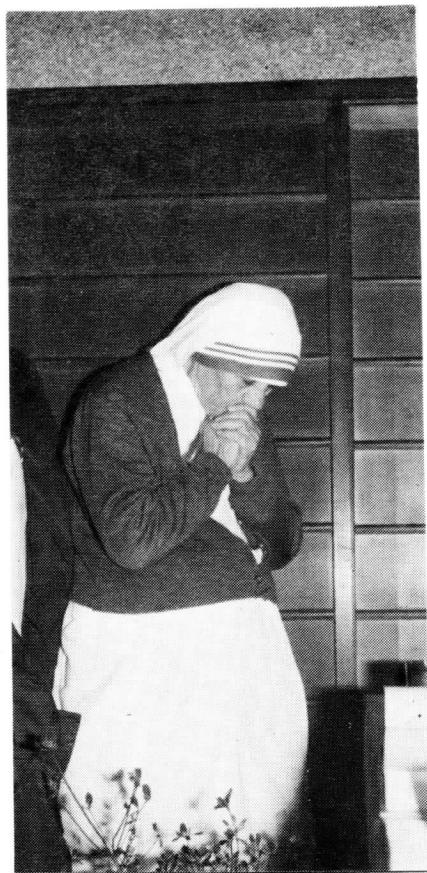
永田さんは、死をもって何を叫んでいたのであるうか。いつでもこちらに合わせて笑顔を向けていた永田さん。患者交流会のとき、



# 新しい労働者の家

四年前の越冬夜間バトロールのときに多くの青かん（野宿）している労働者に会つてから、この労働者のために泊る家があつたらしいなあといつも考えていました。しかしこの夢は仲々実現できませんでした。適当な家が売りに出ていないし、いい家があつたら値段は高く買うことができませんでした。やっと去年に喜望の家のとなりにアパートを見つけることができて、今年の三月に手に入れました。三八坪の二階建ての家で、部屋は一七室あります。六月にオープンする予定です。

長い間入院生活を送っている労働者は、退院してすぐに仕事ができないし、ドヤで生活保護も受けられないから、生活に困っています。こういう労働者のために新しい家が一時的な住まいとなつて更生への橋わたしとなることを予定しています。



▲新しい労働者の家で祈って、いらっしゃるマザーテレサ

又、いつか小さなコミュニティができて、一緒に生活して、一緒に軽い仕事をしてお互いを支えながら生きることも新しい家に期待しています。

4月25日にマザー・テレサが釜ヶ崎にいらしゃいました。朝早く釜ヶ崎を回つてから、新しい家でごミサをささげて一緒にそ

（ハインリッヒ）

の家のために、釜ヶ崎の人たちのために、マザー・テレサの活動のために祈りました。私たち毎年の越冬対策に「一人の死者も出さない」ということをモットーにしていますが、マザー・テレサはもっと徹底的に一

人一人の命、特に貧しい人、皆に見守てくれる人、だれにも愛されていない人を一人一人大切にして仕えていらっしゃいます。私たちもこの精神にもっと熱心に生き

す。私たちもこの精神にもっと熱心に生きることができます。私ができるようになると願っています。

# 総括集会

1981年 3月8日

於 ふるさとの家

司会 一九七五年以来、私たちは越冬に関わってきました。その中から、病気、特に結核の問題を越冬の中心に据えようということがでてきました。今年は、一人の結核患者の完治を求めて、みんなの力を集中しようといふ一つの結論が越冬委員会の中で話し合われました。

始めに、入佐さんが一年間結核と取り組んだまとめて、発題していただきたいと思います。

## 一年間結核と取り組んで

入佐 ここで一年間、こつこつと結核と取り組んで来たが、結核の患者さんが一人も治らなかつたということは、本当に思つてもみなかつたことです。釜ヶ崎でも結核の一人や二人でも治るやろと一年間おったんですけど現実の厳しさ、難しさにびっくりしています。

まず、三角公園に行つて、結核だつたら、青カンしているということを聞きました。今「入院したらどうですか」と入院をすすめるんです。何ヶ月もかかつてやつと入院しても入院した病院側にもいろんな問題があつて、か」と言うが全然ダメでした。二月二六日に

結核の患者さんだつたら三種類の薬を飲ましてたらしいのに、ビタミン剤とか胃腸薬とかお茶碗に一杯でている。そういう病院に入院させて、「頑張つて下さい。自己退院しないで下さい。」と言って病院訪問しても、長くて三ヶ月、短くて二、三日で退院してきました。なかなか入院生活が続かない。よく労働者が、「入院するよりもここで死んだ方が幸せや、あんな入院生活するのはもういやや。」といふのが自分自身病院訪問してみて、百分の一かも知れないけど分りました。入院してそしで二、三ヶ月で退院と、同じことを繰り返したら二倍も三倍も悪化してしまいます。そんな中で、どうしたら結核が一人でも治るんだろうか、ということを考えさせられました。

レントゲンをとったてみると、一方の肺がまつ白で、そのままの状態だと死んでしまうということでした。それで、生活保護をかけて通院治療をしたらどうか、ということになりました。

体は毎日、リヤカーの中に寝泊りしていました。いるから住所不定で生活保護がかけられません。それで、彼はバタヤをしているのですが、ダンボール等を買い取ってもらうK商店の親父さんに相談したんです。「Sさんに、K商店の一部屋を貸してもらえないか」と頼むと、「うん、いいよ」と承知して下さいました。そうして福祉事務所へ行くと、「こういう人は、排菌しているので入院させなければなりません。」と断わられました。「この人は、どうしても入院できないから生活保護をかけてくれないか、と相談しているんですけどれども」と言つて、症状を話しました。「ぜひお願いします。」と何度も頼みました。ようやく、福祉事務所の人がSさんを訪ねて下さいました。Sさん自身は、精薄で小学校もちゃんと行ってないから、普通の日常会話をむづかしいし、名前すら書けない状態です。福祉事務所の方に「生活保護をかけて下さつたら、私がSさんと一緒に病院に行って、通院治療をしますから」と言つて、一生懸命お

願いました。すると、「三ヶ月は生活保護をかけてあげるから、その間に、本当に良くなったらその時点でもた考えましょう」と言って下さいました。

通院するにも、酒を飲んでいたら病院は受け付けてくれません。そこで、Y先生に、飲酒してても診察してくれるK医院を紹介してもらいました。その病院へ行くまでが大変なのです。先生も言葉のかけ方に、気をつけ下さって、レントゲンをとりリファンプシンをいたぐことができました。K商店の親父さんが薬の管理をして下さり、一日一回飲ませて下さっています。食事もお願いして、

これが本当にいいんだろうか、と思います。入院生活をして閉じ込められた中で不必要的薬を飲まれ、あるいは不必要な点滴をされながら治していくのが果していいのだろうか。もちろん、その人が入院して治すという意志があるのならそれでいいんですけども。いろんな病院が釜ヶ崎の労働者を入院させたら儲かるというのが眼について仕方ないんですね。そういう面についても考えていかなきで下さって、やいけないなあとと思いました。そして、今年こそ、一人でも結核の患者さんが完治するまで関わりたいと思います。

## 入佐さんの発題から

かけてくれないか、と相談しているんですけれども」と思っています。

このことから、私たちが一人一人の労働者と関わる時に熱意をもって関わることが大切だと思いました。リファンプシンという薬は腎障害・肝障害・胃腸障害などがあります。そのための指導も大変な時期がくると思いますが、毎日ボツボツとやっていきたいと思います。

司会 Sさんというのは、越冬の中で出会い青カンを続けている人です。出会つてからレントゲンをとるまで二ヶ月かかっており、その間に悪くなっていると思います。非常に気長にやらなければならないことだと思います。今まで私たちは入院させることに重点を置いていたんですが、釜ヶ崎の中で治していくという、しかも、新しい人間関係をつくり

ながら治していくという、この事についてヒントをくれたのは、入佐さんがここへ直接くるきっかけになつた岩村先生も言つたことです。結核を治すためには仲間がいる。一人の人は治らない。いわゆる農村の中ではじき出された人が治らない。新しい仲間をつくるような治し方をしなければならないだろう。なんとか、釜ヶ崎で治すことができないだろうかと私たちも考えてきました。

去年一年、病院訪問あるいは結核患者との対応、その他をしてきたので質問、意見を出していただきたいと思います。

I 付け加えます。Sさんは以前愛染橋病院に入院していたんです。結核と糖尿病と両方なのでちよつと難しいです。それで愛染橋のケースワーカーの所へ福祉事務所の人が、Sさんってどういう人か聞きに行つたそうです。すると、「あの人にはもうお手上げですわ。入院など絶体にしませんよ。」と言われたそうで、いろんな事を通してよかつたなあ、と思つています。糖尿病を検査したら二百以上もでてるんです。一四〇ぐらいまでだつたらしいんですけども一二〇ぐらいあつたんですね。だからちよつと大変やなあとK先生もおっしゃつてました。

E 排菌しているから、回りの人に対しても心配ね。

I 本人の意志が大切だと思うんです。回りの人があとんど四〇才前後なんです。終戦前後的人は、一度結核に感染してゐるんだそうです。だから大丈夫だってY先生がいうんです。

H この一年で治したい人はSさんですか。

I 難しい人を治したらやさしい人は応用できるのではないか、という意見もあって。今まで入院している人だけをみて訪問していくんですけど、その人たちはみんな退院してしまつて……。もっと濃度のこい病院訪問が必要なのではないか、と思う時もあるんですけれどもね。

M 住いの問題はどういう風に解決したんですか。

I 一応、書類上の住所はK商店なんですね。けれども、本人はね、リヤカーがいいということですけど、そこで寝てるんです。リファンブシンとリファンブシンは結核菌を殺す働きなんですね。だから飲んでいたら、どこに寝ようが、少々ご飯を食べなくても治るとY先生はおっしゃるんです。それほど薬を飲むのが大事だという意味でおっしゃつたんです。

S 今、定期的に行つてますか。

I 三日に一回ぐらい、ひどい時には毎日行つたりしています。「明日病院に行きますよ」って何日も前から言つとかなきゃあかん

S 私はこういうケースは規則なんかないと思うんですよ。入佐さんがSさんと関わりをもつたことを一つのケースとして大事にしたいと思います。いろいろな方法で関わっていくことができるそういうケース

をつくりあげていく一つのステップとして大事なものになるのではないかと思いますね。

こちらの思いとか、こうせんとあかんとか押しつけるんじゃなくて、定期的に関わりをもつて治つていく過程で人間関係をつくっていくことが必要なんではないかと思いますね。

司会 個人だけでやれるものではないし、入佐さんだって病気になる場合もあるだろうし、ある程度、連絡をとつておいた方がいいと思いますから何でも聞いて下さい。リファンブシンは結核菌を殺す働きなんですね。だから排菌している人は三ヶ月飲んだら排菌しきくなるんですね。それだけに非常に副作用があるんですね。特に糖尿だと余計に副作用があると思うんですが、使い方は別れているんです。東京の方では使つてゐるんですが、

関西ではあまり使つてないんですね。ところが、病院へ行つたらどこでも飲んでますね。我々も、結核の勉強をしとかなきゃあかんのだと思いますね。

**M** 副作用が出てくるとなると。

肝機能が丈夫だから大丈夫だろうって先生がおっしゃるんです。

**I** 司会 百人の中で追跡調査している人いるの。

**S** 二人。一人は入院中で、もう一人はこの前、退院してきました。

**I** S 記録はとつておられるんですか。

**S** 今はとつていません。

司会 僕らも言つてたんですが、百人発見するぐらい容易いと思うんですよ。だけど発見した後どうするか、という点でおざなりだったんだと思うんですよ。だから今年やるんだつたら、候補者をちゃんと見つけて、この人はやるというようにやらなければ。百人いますということで、結核患者が減つたわけではない。我々がやっていくことは調査することではなくして、実際に治していくにはどういう手だてをするのかということだから、今年百人の調査をするのなら去年とは違つた取り

組みをしていかなければならぬなあと思ひます。

**A** 今SさんはSさんだけですか。

住居の問題が大変なのですよ。

**I** 司会 厳密に言うと二つあるんですよ。結核予防法と生活保護法を適用させようと思うと住居がなければならないんですね。たまたま、浪速区の福祉事務所はある程度理解してくれた。その人の前歴と入佐さんが個人的に関わっているという型で。そういう風に受け入れる母体がなければかなり難しいと思うんです。結核予防法を使わないでリファンブシンを飲んだら。

**I** 司会 一日分八百円。現金で。

**S** 司会 そういう薬なので、ちょっと簡単に飲めないんです。

**H** H 今の話、聞いたらあまり見込みがないね。治るという。

**I** S ケースが難しいから?

**K** K 先生が言われたようにね。数を数えることはいくつかやっていたわけです。しかし、実際、アフターケアというか、どこまでケアしてきたかという実績というのはないんでね。

ただ、傷病手当をもらつた人を病院に入ります。所に可能性あるんやないか、と思うんです。これほどしんどい人を治したつていふケースはないからね。やっぱり、こういう一つはK商店の親父さんが非常に理解してくれて、薬のことはやってやると言つてくれて、その通りやつてくれているということ。これが個人でどこかに住んでいて、入佐さんが毎日、出かけるというのはかなり難しい。それから、外で生活しているけれども、一遍はK商店の親父さんのところに顔を見せると、そういう人間関係で薬も信用してくれるという。福祉事務所と病院も応援してくれている。今までからみるとかなりいいんじゃないかと僕は思います。後、これが入佐さんだけの責任じゃなくて、これをやるのならみんなでどういう風に応援していくのか、を考えていきたいと思います。これでうまく行けば、次のケースの時も居宅保護をしながら結核を治すという道が開けると思うんですよ。これが失敗したら何や、ということになりまづからね。これ、手がけた以上は非常にしつらい仕事になると思うんです。

I しんどいけれどもね。福祉事務所の方

もものすごい面倒味がいいんです。浪速の保健婦さんともちゃんと話ができるて、保健婦

さんも私と一緒に訪問して、回りの人の健康管理とかも気を配ってくれてたり、思つてい

たよりも人間関係事体はいいんです。

S ただ私は、そのいろいろな経験を記録

するというのは、大切だと思いますね。たとえ、Sさんが途中で失敗したとしても次の人のために非常に必要な経験を踏まえているだろうと思うんですね。みんなで分ち合つていけるものをつくつていけば、もちろん、Sさんが失敗していいというわけではないですけれどもね。次のステップを踏まえるために、すごい知識になると思います。

司会 今、一応入佐さんが中心になって、一人の労働者を治すということで、具体的にSさんの入院しないケースを追っかけようといふことになったのですけれども、我々は、これまで続けてきた関係上、病院訪問はずつと残っているんですね。その中でも、去年やったように、患者の交流会、その他退院後にならない問題について意見を言つていただきたいと思うんです。

## 結核とアルコール依存症

ですが、本を読むことは得手じゃないって、韓国の人で、やめる意志はあるなんですかよね。

司会 その人は、薬はどうしてるんですか。

I S 医院のお医者さんが、よく面倒を見て下さって、お金が少しぐらいなくとも、薬を下さるみたいです。

司会 保険をもっているんですか。

I はい、もっています。

S それはやっぱりアルコール中毒ですよ。一定期間全然飲まずに、一ヶ月、二ヶ月働くて、そして一週間ぐらい人が変ったように飲んでしまう。そういう種類のアルコール症です。ですからかえって難しい感じがするんでしまって。

I とことん飲んで、とことんやめるんでしまって、仕事ができなくなつて青カンを続けるんです。二ヶ月ぐらい飲み続けて、そまつたんです。そしてそれからとことん飲んでしまつて、仕事ができなくなつて青カンをすよね。断酒会も勧めたんですけど、わたしは自分の意志で治すんだ、言つて。

S わしは酒が切れるんや。一週間だけ飲んでたら、後は大丈夫やと思うんですよ。アルコール症の典型的な例です。

その人、お酒の変りに何に希望を置くか難しいんです。喜望の家の図書館も紹介したんう病院が必要だと思うんですよえ。

司会 誰か、行って話を聞いてきたら、い

いと思うんですよね。活動のためにね。そこ  
が本当によかつたら、入院して治していくの  
も一つの方法だと思うんですね。だから、取  
り組みの中でそういう広い、今まで手がけな  
い分野で治るのならそういうこともやってい  
つたらいと思います。誰か具体的に行つた  
らどうですか。」

## D 病院の場合

E 他の病院の患者さんでもね。D病院の  
院長についての不満がいっぱいあるね。  
S そういうのね。具体的にこの人は、ど  
うこうされたということがあつたらね。噂と  
してはよく聞くんだけれども。あいう病院  
が救急病院でね。運ばれる率が一番高いとい  
うのは問題がある。それに面会に行つても上  
にあげてくれないわけで、そうすると中で何  
をやられているかわからへんのです。以前や  
つたら、アル中の人人は、すぐに精神病院へ放  
り込まれたことがかなりあるわけです。

S D病院は今、どんな感じですか。  
E 行つたり行かなかつたりで、この間、  
どなられて、おじけづいてしまつて。

S 上にあげてくれますか。  
E 全然、だからね、保険で入つた人はあ  
げてくれるんじゃないかしら、縁故関係と。  
S 例えは、愛徳姉妹会などで、D病院で  
殴られたとか、そんな相談はありませんか。  
E ありますよ。

S かなりその辺が、D病院についてはあ  
るみたいで。

E 外科の知識は割と弱いと聞きますね。

専門は産婦人科でしょ。

司会 今、SさんからD病院についての話  
があつたんですけども、具体的に誰がいつ  
頃と明確にしていかないと、社会的に問題に  
すると言つても知らぬ存ぜぬということにな  
りますからね。

S 労働者に病院へ行けと勧めてもね。ど

うしてもああいう病院があつたら「行かない」  
という形になつてくるからな。

司会 救急車は基本的にD病院に運ぶでし  
ょ。

I 生きるか死ぬかの人にね、「救急車呼  
ぼうか」と言うんです。そしたら「D病院だ  
ったら行かへん」と言うんです。

S それはものすごい多いやろ。

I だからね。救急車の人に「D病院以外  
の所に運ばれませんか。」と言うたら「D病院だ  
くちや怒られるんですね。救急車はD病院  
へ行くんが法律みたいなもんやから言うて。  
それから、労働者が、死ぬ時にはY医院長を  
殺してから死にたいということをよく言つん  
ですね。だから、ものすごい扱いを受けて

司会 普通だったら機械を運ぶのにね。手  
術をするということも。

司会 とにかく、病院が三つになつたわけ

でしょ。隣に建つて、新大阪に建つて。富士

見病院どころじゃないですね。

いですね。

S これは、病院訪問を続けるという前提の下で、行って欲しいと思うんですね。

### 患者交流会について

E 阪奈病院を、Tさんがこの三月に退院して、友人のアパートに一ヶ月ほどいて、今仕事に行ってるんですね。もう一人、一昨日阪奈を退院して、生活保護をとって、アパートを借りて生活している人がいます。この二人を交えて、患者交流会をもてば、退院してからの生き方とか、対処の仕方等、入院している人にとつて励みになるのではないかと思うんですね。

司会 去年は、五月・七月・九月と三回して後、越冬になつたんですね。参加した人の意見で続けて欲しいことがあるんで、今年も続けて行こうということなんですね。S 交流会を定期化して、Eさんが言われたように、退院した人を交えて交流会をもつことは、希望を失つて入院生活を続いている人がいるんで大切なことだと思いますね。

司会 今年も一月置きぐらいにできればい

ます。

プラスであるということを前提にして、病院訪問も続けるし、患者交流会もやると、そして患者交流会はむしろ、入院している人たちの退院後の生活を保障していくことに取り組むということでおろしいですか。どういう風なシステムにするかについては、整理直さなきゃならないと思うんですね。どちら辺に中心を置いていくかということもあるんですが。

結核については、一つはSさんを追つていぐということ、もう一つは病院訪問を続けながら交流会をもつていくといふ、このことが柱として決まりました。二頭を追う者は一頭も得ずということですから、とにかく一人の結核患者をみんなで何とかしていく、その中で少しでも全体がレベルアップするために病院訪問とか、患者交流会でつめていこうといふ方向をもつて、結核についての話し合いはたち切つていいですか。具体的なことは、月二回ある医療連絡会でつめていきたいと思

司会 少しでも、患者が治っていくことにプラスであるということを前提にして、病院訪問も続けるし、患者交流会もやると、そして患者交流会はむしろ、入院している人たちの退院後の生活を保障していくことに取り組むということでおろしいですか。どういう風なシステムにするかについては、整理直さなきゃならないと思うんですね。どちら辺に中心を置いていくかということもあるんですが。

結核については、一つはSさんを追つていぐということ、もう一つは病院訪問を続けながら交流会をもつていくといふ、このことが柱として決まりました。二頭を追う者は一頭も得ずということですから、とにかく一人の結核患者をみんなで何とかしていく、その中で少しでも全体がレベルアップするために病院訪問とか、患者交流会でつめていこうといふ方向をもつて、結核についての話し合いはたち切つていいですか。具体的なことは、月二回ある医療連絡会でつめていきたいと思

司会 少しでも、患者が治っていくことにプラスであるということを前提にして、病院訪問も続けるし、患者交流会もやると、そして患者交流会はむしろ、入院している人たちの退院後の生活を保障していくことに取り組むということでおろしいですか。どういう風なシステムにするかについては、整理直さなきゃならないと思うんですね。どちら辺に中心を置いていくかということもあるんですが。

結核については、一つはSさんを追つていぐということ、もう一つは病院訪問を続けながら交流会をもつていくといふ、このことが柱として決まりました。二頭を追う者は一頭も得ずということですから、とにかく一人の結核患者をみんなで何とかしていく、その中で少しでも全体がレベルアップするために病院訪問とか、患者交流会でつめていこうといふ方向をもつて、結核についての話し合いはたち切つていいですか。具体的なことは、月二回ある医療連絡会でつめていきたいと思

司会 少しでも、患者が治っていくことにプラスであるということを前提にして、病院訪問も続けるし、患者交流会もやると、そして患者交流会はむしろ、入院している人たちの退院後の生活を保障していくことに取り組むということでおろしいですか。どういう風なシステムにするかについては、整理直さなきゃならないと思うんですね。どちら辺に中心を置いていくかということもあるんですが。

結核については、一つはSさんを追つていぐということ、もう一つは病院訪問を続けながら交流会をもつていくといふ、このことが柱として決まりました。二頭を追う者は一頭も得ずということですから、とにかく一人の結核患者をみんなで何とかしていく、その中で少しでも全体がレベルアップするために病院訪問とか、患者交流会でつめていこうといふ方向をもつて、結核についての話し合いはたち切つていいですか。具体的なことは、月二回ある医療連絡会でつめていきたいと思

司会 少しでも、患者が治っていくことにプラスであるということを前提にして、病院訪問も続けるし、患者交流会もやると、そして患者交流会はむしろ、入院している人たちの退院後の生活を保障していくことに取り組むということでおろしいですか。どういう風なシステムにするかについては、整理直さなきゃならないと思うんですね。どちら辺に中心を置いていくかということもあるんですが。

結核については、一つはSさんを追つていぐということ、もう一つは病院訪問を続けながら交流会をもつていくといふ、このことが柱として決まりました。二頭を追う者は一頭も得ずということですから、とにかく一人の結核患者をみんなで何とかしていく、その中で少しでも全体がレベルアップするために病院訪問とか、患者交流会でつめていこうといふ方向をもつて、結核についての話し合いはたち切つていいですか。具体的なことは、月二回ある医療連絡会でつめていきたいと思

司会 少しでも、患者が治っていくことにプラスであるということを前提にして、病院訪問も続けるし、患者交流会もやると、そして患者交流会はむしろ、入院している人たちの退院後の生活を保障していくことに取り組むということでおろしいですか。どういう風なシステムにするかについては、整理直さなきゃならないと思うんですね。どちら辺に中心を置いていくかということもあります。

T 二月の最終日だったです。朝早く、喜望の家へ行くまでの路上で一人の労働者が凍死して、警察の方がタンカに乗せて運んでおられました。私はその方がどういう状態で亡くなられたのかを耳にしたんです。脅の口から倒れていて、この辺で倒れている人は数知れぬものですから、皆がみないふりをして放置していたそうですが、三時ぐらいに「助けてくれ、助けてくれ」という絶叫の声を何回も耳にしたそうです。でも近所の人は誰も出て行かなかつたそうです。そしたら翌朝、カチカチになつて死んでいた。それで警察の方が運ばれたのだと、近くの「ヒロ」という

### 今年の越冬の反省

司会 今年の越冬の全般のことについて意見を聞いておいたらどうか、ということなので、パトロールを一月いっぱいで終つたこととか、パトロールの参加とか、炊き出しには今の所、具体的にはお金を出していないのでそういうことについて言っていただきたいと思います。

T 二月の最終日だったです。朝早く、喜望の家へ行くまでの路上で一人の労働者が凍死して、警察の方がタンカに乗せて運んでおられました。私はその方がどういう状態で亡くなられたのかを耳にしたんです。脅の口から倒れていて、この辺で倒れている人は数知れぬものですから、皆がみないふりをして放置していたそうですが、三時ぐらいに「助けてくれ、助けてくれ」という絶叫の声を何回も耳にしたそうです。でも近所の人は誰も出て行かなかつたそうです。そしたら翌朝、カチカチになつて死んでいた。それで警察の方が運ばれたのだと、近くの「ヒロ」という

喫茶店で聞いたんです。もし、仮に二月の末までパトロールを続けていたなら、その人をセンターの前へ連れていくて、一人の命が救われたんじゃないか、ということをその時になって感じました。私たちが一月いっぱいでパトロールを終ったということで心にひっかかりを持ちました。その人の死の姿を見た時にいたたまれない気になりました。「一人も殺すな」とスローガンを掲げた以上は、やはり最初に決めたように、いつ、どのような状態で死が訪れるか分らない人たちのために続るべきだったのではないかと思いました。最初計画したものは相当な理由がない限り、終らない覚悟をもってやるべきだと思いました。

司会 今、Tさんの方から、パトロールを

一月で終ったということで、二月末にそういう事件があつたと。それをどういう風に考えていくのか、どういう風にこれから対処していけばいいのかと、問題提起が言ったのですけれども、それは、一つはですね、パトロールと布団敷きと警備と、この三つがなければできないだろうということがあるわけです。キリスト教の場合は回るだけで、有志の方が徹夜で警備についたことはありますけれども、

なって感じました。私たちが一月いっぱいでパトロールを終ったということで心にひっかかりを持ちました。その人の死の姿を見た時にいたたまれない気になりました。一人も殺すな」とスローガンを掲げた以上は、やは

り最初に決めたように、いつ、どのような状態で死が訪れるか分らない人たちのために続るべきだったのではないかと思いました。最初計画したものは相当な理由がない限り、終らない覚悟をもってやるべきだと思いま

と。

H 一応、そのような問題があるというこ

とを出して、この次の越冬の前に話し合ったらしいと思います。もう一つ、パトロールをやっている間にも行路病死者がでたということでパトロールの時間帯にも問題があると思

います。もっと遅くやつたら効果的ですね。

司会 今問題的だけ出して、具体的には次の越冬前に考えたいと思います。他に、感じ

ます。もっと遅くやつたら効果的ですね。

司会 今問題的だけ出して、具体的には次の越冬前に考えたいと思います。他に、感じ

ます。その辺を抜きにしてはパトロールもできないのではないかと思思います。実際、発見してどうするのかという問題もあるし、その辺をTさんはどうお考えですか。

T 去年は夜警はやらなかつたですね。今

年はやつたということで、あまり力みすぎて

ね。大きなものを抱えこみすぎて、疲れてしまつたのでは、という感じも受けましたです

ね。もちろん、その時点で夜警が無理であれ

ば、夜警だけは中止するとか、いった方法を

とれると思います。三つを揃えなければどう

にもならないということを持ち出しすぎたん

じゃないかと思いますね。最初に決めたこと

は最後まで続けるべきだったんじゃないのか

と。

I 炊き出しをするから、お金があるけれ

どもそれで酒を飲む人もいる。本当に必要と

している人と、それがあるためにその人の自

立心をそこなっていることがあると思うので

す。その辺の折り合いがむずかしいなあと思

いました。それと、経済的に余裕があったら、

もう少し栄養化の高い雑炊にしたらどうかな

と思いました。キリスト教の方からのカンパ

も考えられるなあと考えました。

司会 今この所、パトロールを巡つての期間

と時間の問題、もう一つは、釜ヶ崎の抱えて

いる問題、仕事が去年の半分ぐらいしかない、

自民党が強くなつて福祉の切り捨てが強くな

っている。炊き出しについては、それに依存

する人がいるのではないか、ということと、

炊き出しの中味の問題ですね。キリスト教か

らのカンパについては、炊き出しの会から要

りますし、炊き出しとパトロールが二月からは、完全に分れてなされて行なわれたこともありますし、ともあります、

S 問題点」というと、今年は仕事が少なか

った。それと、福祉の見直しということで生

活保護をもらっている人も一人一人点検して、

早くやめて下さいというようになり圧力が

かかるつているようです。

請がなかつたということと、越冬を始める前に、具体的に炊き出しへの予算を組んでなかつたことがあります。

S 期間の問題については、一月いっぱいということでやむをえなかつたと思うんですよ。

あの寒い時にね、もう一度組織できればよかつたんじやないかと思つてます。実際、暖かい時もあつたんでね。Iさんもいったようにやればやるで問題がでてくるわけで、そういう意味で、あの寒い時に緊急に組織してやれば一番よかつたなあと思います。医療券の発行を見れば、去年よりも二百枚ぐらい多いんですよ。全体としては、病気の人は病院へということでかなり徹底したと思うんですよ。釜ヶ崎の場合は、あらゆる問題が関連していって、医療の問題だけを取り上げるということにはならないわけですよ。全体に労働者の意識が高揚していく中で病気に対する認識も高まってくると思うんです。だから、今は雇用保険の手帳を持っている人が増えたので、健康保険を持っている人も多いわけで、そういう人は治りが早いですね。来年の冬に向けて夏のうちに労働者の運動をつくっていかないと、あわてて冬に労働者を組織しても、労働

者自身の参加も少ないし、ダメだと思いますね。

司会 労働者の問題点と、我々が現実にぶつかつた問題点を出していただきたいのですが、これらの問題点を次の越冬をどうするかとして踏まえることにしたいと思います。

### キリスト教釜ヶ崎 越冬委員会構成団体

愛徳姉妹会

釜ヶ崎地域問題研究会

関西キリスト教都市産業問題協議会

暁光会大阪支部

守護の天使修道会・子どもの里

日本キリスト教団・いこいの家

日本福音ルーテル教会・喜望の家、ベビーセンタ

・ フランシスコ会・ふるさとの家



この新聞記事を読んだ瞬間、人々は背筋の寒くなる思いをしただろう。そして、あすは、我が身にふりかかることを、おもい知られたにちがない。私は、釜ヶ崎で働くようになってから、多くの人々の死に出会い、その度に、いいようのない悲しみと怒りにみたされ世を去る人が最後の瞬間に、何をうつたえ、何を言葉として残したかったか。うめきにも、どうこくにもにた、おんねんのこもつた、言葉にもならない「言葉」を、うかつに、自分の働きの根底におきたいと思つてきました。

私は、この人の死を知った時、フランクルの「夜と霧」の一場面をおもいだしていた。

この原書は「強制収容所における一心理学者の体験」であるが、私がいま、釜ヶ崎はアウシュヴィッツであるといつたら、人々はその発想に奇異を感じるだろうか。

アウシュヴィッツは「死の収容所」とおそ

れられ、その入口には、かの有名な(ARBEIT

MACHT FREI)「労働は自由への道」標語がかかっていた。だが、この入口をくぐる人には、かのダンテの地獄篇の「ここに入らんとする者は、すべての希望をしてよ」の方がふさわしかったのであった。

最初は、ボーランドを占領したナチに反抗する人々を鎮圧するためであつたが、労働に不適な人間、女・子供はガス室におくりこまれた。そして「身体をこわせ、精神を打ち破れ、心を打ち破れ」の標語のもとに「死の労働」が強制され、組織的に殺人がおこなわれ、人間性を破壊しつづいた。

戦局が不利になると、収容者が生きている限りは、最底の費用で、最大の労働力を引き出すことができるような手段が取られた。時代も、国情もアウシュヴィッツと釜ヶ崎はことなる。しかし、同じ意図で、労働者の人権がおかされ、死へと追いやられる現状をみると、同質、同根といわざるを得ない。

いまや、ただたんに、釜ヶ崎で、アウシュヴィッツ的なことがなされているのみでなく、アジヤの各国に企業が進出して、全アジヤ的規模で、殺人的な行為がおこなわれている。

※

この一件は、結核患者が、容態が急変したために、なりふりかまわず、救いを求めて、おねがいしたのに、拒絶されて、殺されてし

法に該当する要保護者については、市更相内法の西成保険所愛隣分室と密接な協力体制のもとに、それぞれの法適用のもとに、入院又はおねがいしたのに、拒絶されて、殺されてし、収容保護をする」と記されている。また、「結核予防法、精神予防法、性病予防法に該当する要保護者については、市更相内法の西成保険所愛隣分室と密接な協力体制のもとに、それぞの法適用のもとに、入院又はかかる明確な目的をもつて設立された行政機関が適切な処置をおこなった結果、一人の労働者を死に追いやってしまった。

「釜ヶ崎結核患者の会」は人権擁護委員会員会は、申立を受けて、刑事事件として告発するか、警告のいずれかを決定するのであるが、一人の死者の靈をなぐさめるためにも、きびしく対処してほしいと願う。

川原さんは、医療センターの「35条により要入院、労働不能」の診断書をもつていた。

労働者が市更相に行くと、医療センターの診断書をもつてくるようないいながら持参した診断書について、暗に信用出来ないかの言葉をはき、医者でもない職員が、入院、または保護することを拒否しているのが現状である。

医療に知識のない人間が、即入院を要するという診断書をもつてている人間を「一月二十四日の時点で緊急に入院する症状でないと判断し」（川中所長の談話）たどるが、だれが、どの様な理由で、何を根拠に緊急を要しないと判断をしたのだろうか。市更相の職員は「診断書」をもつと尊重しなければならないのではないか。入退院などの手続が素人判断でおこなわれてしまうことは、おそろしいことである。

大和中央病院の対応の仕方にも問題が残る。同病院は、生活保護法にもとづく、医療扶助を受けている日雇労働者の病院であるが、「ケタオチ病院」として釜ヶ崎では有名で、労働者間では、あの病院に入院するくらいならば、死んだほうがよいという声もしばしばきかれ、越冬期間中にバトロールをしていて

救急車を呼ぶときにも「大和病院」以外のところにつれてはいってほしいと、救急隊員に、川原さんは病院から出されて消息を絶ち、すがりついて、おねがいをしている姿を見たのは私一人だけではない。我々が入院患者を訪問しても、見舞客を中心に入れないし、面会もままならぬという病院である。私は、強制退院させられた患者の入院日記なる告発のノートを託されて持っているが、事実とすればおそろしい病院といわねばならない。

川原さんの問題にだけ限定して考えてみても「行くところがない」というのに（二十カ所の結核病院にあたったという談話）、救急病院でありながら、結核指定病院でないとの理由で拒否をした。

しかし、ここで逆に意地の悪い見方をすれば「他の病院に入れないことを、確認してから、外に出した」ということがいえる。

即ち救急病院であるにも、かかわらず、患者の事後の処理を全くしないで、放り出したことにならないか。

川原さんは二月三日、午後、再度、市更相に行き相談したが入院出来ず、同日夕方、病状悪化、やむを得ず救急車を呼び、大和病院に搬送されたが、前記のごとく一時間後には病院から出された。どこの病院も引きとると

ころがないというダメを確認させられて!! ころの前に顔を出さず、五日午前四時頃、地下鉄我孫子駅入口付近で倒れていたところもまもなく死因は、肺機能不全であつた。救命認識させられることが多い。職業の倫理の欠陥は人間性の低さによるものといつてよいだろう。私自身の周辺には尊敬すべき多くの医者があることは感謝であるが、あまりにも質の悪い医者が多すぎる。

釜ヶ崎の人々の不幸は、医者を含めた医療体制を信用していないことである。

この不信は、行政の結核患者切り捨てと、病院中における、釜ヶ崎の労働者に対する差別待遇とから来ている。

差別的な労働、劣悪な労働条件、そして病気になり、労働が出来なくなれば、切り捨てられるといった、釜ヶ崎の労働者は、いまこそ、第二の川原さんを出さないために、立ちあがらなければならぬ。

—56—

# 越冬委員会専従として働き始めて

土井美保子

私が始めて釜ヶ崎に行つたのは、一九八〇年一月一日～三日の間に行われた越冬セミナーでした。以来、より深い関わりを求めて、地域研に参加したり、教会実習を釜ヶ崎での実習と変えてもらったりして、数ヶ月を過ごしました。今、思うと、釜ヶ崎に関わることにより、私自身がもつてゐる狭い世界から抜け出したいと思い、釜ヶ崎という場で、現実の問題を見つめる中で私自身が、變つていけばいいと願つていたということに気づきます。何も知らない状態から、一步踏み出したわけです。

越冬委員会の専従として働き始めてから、五ヶ月が過ぎました。多くの人との出会いがありました。私と隣人との関係を大切にしていきたい、と常々考えていた私ですが、それが観念として終つてしまつてゐるようです。「生きるのはむづかしい」という言葉を時折労働者の口から語られます。私は、どれだけ真剣にこの言葉を受け止めているのか疑問です。労働者のもつてゐる苦しみ、痛みを私がどれだけ受けとめ、そして、私は何ができるのか、と自分自身に問い合わせます。問い合わせています。

釜ヶ崎に来て以来、私の頭を支配しているのは、『不公平』といふことです。それは、冬の夜、パトロールをしている時にもつくづく

く感じることです。なぜ一方では暖い布団に眠れる人がいて、なぜ、路上で凍死する人がいるのか、なぜ一方では、あり余るほどの食物があり、ここでは、食べることもできないのか、それは、疑問といふより、怒りに近い感情です。「なぜ、釜ヶ崎にこなればならなくなつたのか」「なぜ、日雇いの仕事はこんなに好、不況の波をもろにかぶるのか」そこでは、個々の責任を超えた大きな力があります。資本主義経済の矛盾と一言で言つてしまふことも可能ですが、泥酔して、倒れている人を目の前にする時、一人の人が生きていくと、いう重苦しさが心に迫ってきます。『不公平』を背負い続けて生きている人の力強さでしょうか、優しさでしょうか、そこら辺に惹かれて、私は釜ヶ崎に来たのかしら、などと思つています。ここに来た理由をあげようと思えば、いくらでもつくり出すことはできるのですが。

人間の世界は、『不公平』だと言い続けながら、のんびりと、『不公平』のもつ重さを見つめ自分を見つめ続けたいと思つています。

## 編後集

今日、福祉事務所の方が来て、釜ヶ崎合同労組が行つた「生活保護を適用せよ」「仕事をよこせ」のデモの結果を聞いていました。

生活費一時支給という形でしか、保護できないとのことでした。仕事がなくなつたら、どこかへ探しに行くだろう。日雇いという仕事は望ましくない。病院を自己退院してくるのは本人の心がひねくれているからだ。心がけが悪い、という言葉が語られました。病院側の問題も確かにあると認めていましたが……。

彼の言葉には、自分は日雇をする人間とは違うんだ、という意識があるようでいらだたしい思いで聞いていました。仕事のない今、労働者の鬱いは、ますます厳しさを増しています。

\*

(M)

「働きとても、仕事がないもん」と二、三人の労働者がしきりに話合つていた。初夏の釜ヶ崎、道路には充分な食事も取れず、やけ酒か、力なく寝ころがっている労働者の姿が多くみられる。

昨年の越冬パトロールは少し早く終わったが、その後の寒波で何人かの死者が出たとか。今年の関わり方に、もう少し考えられないものか、との思いが反省として出てくる。

しかし、凍死がなくなつても今は職がなく食べゆけない、その為に病人、死者が出ていく現状をみつめながら、問題が大きいだけに

私達に何が出来るのか。問い合わせと、とまどいの中で、出来ることから、できる人々で、手をつないで、何かしなければという心境です。

(S・T)

\*

これまできているということである。

\*

(J・M)

越冬報告書の編集に従事して、しみじみおもうことは、我々が対決しようとしている問題は、越冬という「冬を死なないで生き抜く」ということでは解決がのぞまれないということ

\*

りします。ボランティアの平均年齢は何才ぐらいでしょうか。別に年令はどうでもいいのですが、それでも若い人がどんどん来てほしいなあと思う昨今です。間もなく夏のセミナー。若い人たちが釜で初夏のひとときを過ごします。

(J・M)

私たちが釜ヶ崎の越冬にかかわって数年、体力の限界など感じて「年やなあ」と思った

にして、一人でも関心を示してくださる方があるとするならば、望外の喜びである。(愛明)

- 
- 第11回釜ヶ崎越冬闘争支援報告書  
「釜ヶ崎 1980年冬」
  - 発行日 1981年 7月15日
  - 発行所 大阪市西成区萩ノ茶屋2-8-18  
喜望の家気付 ☎ 06-647-3946
  - 編集集 キリスト教釜ヶ崎越冬委員会  
「釜ヶ崎1980年冬」編集委員会
  - 印刷 関西プリントセンター
  - 頒価 300円
-